

平成21年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

石井(健)研究室	氏名	平井尚樹
卒業研究題目	インタビュー型対話における発話の特徴分析	
<p>ロボットが社会に浸透しつつある現在,人間との共生・共存を目的とした,次世代ロボットの研究・開発が活発化している。ロボットが人間社会に溶け込むためには,人間と円滑なコミュニケーションが図れることは重要であり,そのために,人間同士の対話において大部分を占める,雑談のような対話を行えることが必要であると考えられる。雑談を行うためには,相手への受け答えが自然であるだけでなく,盛り上がる対話を行うことで相手を楽しませる必要がある。</p> <p>盛り上がる対話を行うために,本研究室では,インタビュー手法を用いた対話エージェント「インタビュー型 KELDIC(Ken's Laboratory Dialogue Computer)」の研究を進めている。インタビュー手法とは,対話相手から話を引き出すことで,対話を盛り上げる手法である。しかし,インタビュー手法を用いることで,発話にどのような特徴が現れるか,盛り上がる対話は,どのような特徴に起因しているか明らかになっていない。</p> <p>そこで本研究では,インタビュー型対話における発話の特徴を分析することで,インタビュー手法による発話の特徴を明らかにする。さらに,現在のインタビュー型 KELDIC の発話を分析し, KELDIC のインタビュー型対話をさらに高めるための改善点を見つけ出す。</p> <p>人間同士の対話について,インタビュー型対話と自由対話の比較分析を行うことで,インタビュー手法による発話の特徴を分析した。分析は以下の2つの手法で行った。</p> <ul style="list-style-type: none">● SWBD-DAMSL タグを用いた発話傾向の分析● 語の共起情報を利用した,対話相手からの話の引き出し方についての分析 <p>発話傾向の比較により,インタビュー型対話では,期待に反して5W1H型の質問よりもYes/No型の質問の方が出現割合が高かった。また,インタビュー型対話では,主観的な意見や客観的な事実に関する発言の出現割合が高いことが明らかになった。さらに,話の引き出し方の比較により,インタビュー手法において,どのような発話によって話を引き出しているのかが明らかになった。</p> <p>次に,インタビュー手法による発話の特徴が,インタビュー型 KELDIC に反映されているか否かを調べるために,人間同士のインタビュー型対話と, KELDIC と人間とのインタビュー型対話を同様の分析方法により比較した。これにより, KELDIC における改善点が明らかになった。</p>		